

第7回静岡市清水庁舎整備検討委員会

＜議事要旨＞

開催概要	
■日時	令和5年2月15日（水）15時00分～17時00分
■場所	岡生涯学習交流館2階 講義室
■出席者	委員 恒川和久委員長、石垣俊幸委員、伊東哲生委員、牛場智委員、 黒瀬武史委員、小豆川裕子委員、関孝一委員、田宮文雄委員、 堀川渉委員 欠席：加藤委員
	事務局 静岡市企画局 山田次長 企画局 アセットマネジメント推進課 岡村課長、長井室長、藁科主査、井上主任技師 欠席：静岡市企画局 松浦局長
■傍聴者	15人程度
■議題	1 開会 2 報告事項 （1）令和4年度清水庁舎整備の方向（改修） （2）今後の進め方 3 議事 （1）導入機能の見直し （2）庁舎整備（改修）の内容 4 事務連絡 5 閉会
■資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 報告資料 （1）令和4年度清水庁舎整備の方向（改修）、 （2）今後の進め方 ・資料2 議事資料 導入機能の見直し ・資料3 議事資料 庁舎整備（改修）の内容 ・参考資料 新聞記事 ・参考資料 市民意見 ・参考資料 ユニバーサルデザイン（LGBTQ） ・参考資料 自治体DX（行政サービス／職員の働き方改革）

議事要旨	
1	開会
2	報告事項 (1) 令和4年度清水庁舎整備の方向(改修)
事務局	(資料1(1)について説明)
恒川委員長	事務局からの説明について質問等があればお願いします。 (質問・意見なし)
3	議事 (1) 導入機能の見直し (2) 庁舎整備(改修)の内容
事務局	(資料2・資料3について説明)
事務局	<p>本日ご欠席の加藤委員からの事前意見を紹介いたします。</p> <p>導入機能の見直しについては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体として、新築の計画である基本計画をベースに作られているので、資料がフルスペックの記載となっている。 ・ コストについては、上限を設定する必要がある。 ・ 改修で新築並みの機能を求めると、新築よりコストが高くなることも十分にある。 ・ 理想はあるが、20年程度の使用を前提とした改修ということで、全ては実現できない。 ・ 加えて、各項目の中で優先順位を検討した方がよい。例えば、トイレのユニバーサルデザインについて、既存のトイレをすべて対応させようとするとう改修費用が高額になってしまうので、区役所エリアだけに限定するとか、そういう整理が必要(例:ユニバーサルデザインに配慮するという程度の記述にする等)。 <p>と頂きました。</p> <p>庁舎整備(改修)の内容については、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現庁舎は、津波浸水エリアの中にあるので、庁舎の災害後の役割において、平時業務を含むBCPの考えは不要かもしれない。津波を受けた後、周辺に深刻な被害が残る状況で、ここで区役所の通常業務を行うのは効率的ではない。 ・ 清水庁舎の最低限の機能として必要なのは、線路北側からのアクセスが可能な現計画でうたっていた区役所の通常機能を含むBCPではなく、応急活動、応急復旧活動を行うためのヘッドクォーター機能ではないか。(現計画では、ペDESTリアンデッキで駅や周辺施設と行き来ができ、かつ、庁舎自体も津波がひけばペDESTリアンデッキより上は普通に業務が継続できるイメージだったので、BCPという言葉に合致していた。) ・ 記載としては、「津波避難ビルとします」ということだけでよいと思う。 ・ 津波避難ビルとしては、庁舎周辺の滞留者を確認し、避難人数を想定した上で、短時間のうちに避難者がスムーズに上層階へ移動できるような設備(幅の広い階段や外付け階段など)が必要であ

議事要旨

れば、改修に合わせて整備する必要があるかもしれない。
と頂きました。

その他の意見としましては、

- ・ 資料が全体的に新築を前提として作られている印象がある。
- ・ ここまでの議論から 20 年程度の使用を前提としているので、最低限の機能をおく、といった考えを意識する必要がある。

と頂きました。

恒川委員長

加藤委員より、資料がフルスペックであることや改修前提ではなく新築前提のようにみえるという指摘を頂きました。事務局からの説明について質問等があればお願いします。

本日の資料は庁舎整備（改修）の方向と前回の基本計画を対比的に比較していますが、この委員会の最終的なまとめはどのような形になるでしょうか。

今年度の成果は現基本計画を改修基本計画として差し替えるか、第三次診断の詳細な結果を踏まえて差し替えるための指針のようなものになるでしょうか。

事務局

第 6 回検討委員会までで整理した方向性は、パブリックコメントを踏まえ、市として意思決定を行い市の計画として位置づけたのであり、今後履行します。一方で、今回の議題は改修に伴う具体的な機能についてですが、改修は新築と比較して、一定程度の制限を受けます。

来年度実施予定の庁舎の第三次診断結果やヒアリング等と、今年度の第 7・8 回検討委員会で頂いたご意見をもとに検討をし、基準となる市の考え方を示していこうと考えています。

最終的には第三次診断の結果をもって改修基本計画となりますので、今年度は改修の考え方をまとめたものを作成します。

恒川委員長

今回の資料では、基本計画と新しい改修の方向性が対比的に並べられていますが、今後引き継ぐ人にとっては、まとまった変更後の基本計画書があった方が良いと思います。一方で、基本計画書として取りまとめるとフルスペックに書く必要が出てきてしまいます。最終的には、このあたりも考慮して、一つの資料にまとめてもらいたいと思います。

黒瀬委員

資料 2 の 6 ページに「負担軽減に配慮し利用しやすい窓口」と記載がありますが、窓口部門の来課人数を見ますと、来庁者の約 2/3 は証明書の発行が目的です。このような証明書発行サービスは、福岡市の例にもあるように、オンラインに代替することもできます。そのため、負担軽減に配慮し利用しやすい窓口と同時に、庁舎に来なくてもできることを増やすことを市としての大きな方針として持ってもらいたいと考えます。

オンラインに代替されると、窓口機能分の面積を減らし、1 階部分を市民に開放するなどといった使い方が変わってきます。さらに、手続きの簡略化やオンライン化は、庁舎の位置に依存せず、また市民全員にとっても有益です。資料上は、窓口に来てから使いやすく捉えられますが、時代に合わせて変えていくべきと考えます。

議事要旨

こうして生まれた面積を使って、相談ブースを設けるなど使いやすい庁舎になってほしいと思います。

恒川委員長

黒瀬委員に同感です。証明書のオンライン発行やコンビニ発行についてはどういう計画がされているのでしょうか。

事務局

静岡市でもマイナンバーカードの普及に力を入れており、全国的にも進めていますが、個人認証が進めばオンライン発行やコンビニ発行ができるようになります。

令和3年度の調査結果にもありますが、地方公共団体情報システム標準化に関する法律によって、令和7年度までに住民票や国民健康保険など一元化し整うことで、窓口のデジタル化が進むよう計画されています。そうすると、発行手続きのための面積や職員を減らすことができ、面積や人材を有効活用することができると想定しています。

新しい技術を入れて、庁舎もスリム化し市民のための機能を確保することは重要なため、強調していきたいと考えます。

恒川委員長

今の資料のデジタル化についての書き方は注意書き程度に捉えられるため、強調するなど前向きに書いてもらえればと思います。

牛場委員

資料2の10ページに、「人と人をつなげる機能」について、「民間施設の誘致を前提とした記載を削除」とありますが、一方で下段には喫茶・売店とあります。喫茶・売店の運営主体は、民間ではないものになるのでしょうか。もし民間であれば、様々な検討ができるようになると思います。

また9ページに、コラボスペース等の画像がありますが、清水区役所の職員の働き方にどの程度マッチしているのか見極めたほうがよいと思います。例えばフリーアドレスは横の連携を促進する目的もあると思いますが、こういったアイデア出しのスペースと業務を遂行するスペースを分けたほうがよいと考えます。行政の仕事上、指揮系統に沿ったもののほうがよく、また窓口に来た人が担当者の居場所がわかりづらくなってしまうのも問題であると思います。

恒川委員長

8ページで、「業務効率を高めるオフィス環境を確保します」とありますが、改修工事に合わせて、働き方そのものや公共サービスの在り方を問い直し、執務室の在り方やフリーアドレスの要否も含めて、あり方に応じた規模やレイアウトを検討することが必要かと思います。

また静岡市庁舎の一部では、レイアウトはフリーアドレスになっていますが、運用の実態はフリーアドレスになっていないと聞きました。形だけ導入して魂が入っていないことが問題です。魂をどうするかを庁舎内部で議論して頂き、ふさわしいオフィス環境を整えてもらいたいです。

関委員

この検討委員会で市民の思いを伝えていった結果、改修という選択肢になったという認識です。その中で、さらに減築なしで改修をしてもらい、最大限に現庁舎を活かしてもらいたいです。

ほぼ毎日清水庁舎に通っていますが、職員の執務環境がとても悪いと

議事要旨

感じます。空調や照明が悪く、職員や来庁者のために更新をしてもらいたいです。また、行政手続きのデジタル化を進めてもらいたいです。対面が必要となる人もいますので、そういった人にも配慮してもらいたいです。

パブリックコメント結果に、市民が集う交流の場や憩いの場として、具体的には喫茶店や屋上で景色が見られるような場とあります。ぜひこのような場を作ってもらいたいです。

恒川委員長

減築については本日の資料に記載する適切な項目がありませんが、関委員のご意見も視野に入れて議論を進めていきたいと思っています。

20年利用を想定した改修をする場合、減築をするかどうかは検討に大きく関わってくると思います。第三次診断を踏まえて検討することとなりますが、主旨としては使えるものは使うということと認識しました。

対面で人と人が合うことの大切さは、デジタルでできるからこそ、来ることの価値やホスピタリティなどを補填してもらえればと思います。

田宮委員

資料3の13-14ページに、仮に減築を行わない場合の庁舎の階層構成に関するイメージがあります。23,931㎡を19,700㎡にするとありますが、今までと同じ課を残すとすると、面積的に実際に収まるのでしょうか。

事務局

現庁舎が23,931㎡に対して、総務省基準や合理的な配置等により19,700㎡あればよいという試算に基づくものです。仮に地下1階を使用しなくてもこれまでの機能は収まるというレイアウトのイメージです。

レイアウト上は狭くなるイメージですが、各階の会議室を1階に集約するレイアウトのため、現実的には職員は窮屈ではなく静岡庁舎よりもゆとりのあるレイアウトになります。

恒川委員長

清水庁舎の職員数は約1千人程度で、庁舎面積が約2万㎡であれば、一人当たり20㎡程度になります。民間オフィスと庁舎では必要諸室が異なるため、単純に比較はできませんが、民間オフィスの場合は一人当たり10㎡程度以下のため、オフィスとしては十分に広いと思います。さらにデジタル化によって、ゆとりが大きくなるため、今よりも小さくなることはないです。

一方で、各部門がどの程度面積を利用するかは検討する必要があります。

伊東委員

減築を行わない案に賛成です。資料3に「地下を使用する場合」では、機械室が地下にあります。機械室にはどのような設備があるのでしょうか。また水密扉は津波を想定していると思いますが、地震によって歪んだりしないのでしょうか。

事務局

地下2階にある設備は、空調設備や消防設備、受水槽、給湯設備があります。

水密扉は、想定される地震と津波の高さを含めて検討をしています。

議事要旨

小豆川委員

資料2の3ページに導入機能の整理をして頂いています。今あることから考えてポイント出しをしてもらっていますが、網羅的になっていると思います。そのため、優先順位をどうつけるか考える必要があるかと思ひます。

例えば、窓口部門別の来課人数をみると、一日あたり2~3人の窓口から、一日あたり200件の窓口もあります。今後、庁舎の機能として窓口を検討する際、各窓口部門の課題やニーズ、業務プロセスの向上を通じたサービスの向上などのステップの中で、優先順位をつけられるとよいと思ひますが、今までに実態調査を行ってきまされたでしょうか。その実態調査と合わせて、オンラインで提供するサービスとリアルで提供するサービスを検討することがよいと思ひます。

また、オフィスの場合大きなグランドコンセプトを作ることがあります。本日の資料に、行政サービス拠点や防災拠点、まちづくり拠点とありますが、このコンセプトのもとに各機能において目玉をつくり、方針をまとめ、優先順位をつけて特徴を抽出するとよいと思ひます。

事務局

新築の現計画の検討では、関連部署と議論を行い、来庁者がスムーズに手続きを行えるようなレイアウトを描いていました。ただ、デジタル化によってコンビニで何が発行できるかなどは検討できておらず、再度デジタル化を考慮したうえで、合理的なレイアウトを考える必要があると思われまます。

今年度中に実態把握の調査を行うことはスケジュール上厳しいと思ひますが、次年度以降に聞き取りなどを踏まえて階層構成やレイアウトに落とし込んでいきたいと思ひます。

恒川委員長

優先順位をつけたほうがよいというご指摘でしたが、小豆川委員の中で、現時点でどの程度つけたほうがよいか考えはありますか。

小豆川委員

例えば行政サービスの中では、オンラインか対面かの議論がありましたが、必ずしも年齢が高い層が緻密なケアが必要とは限らず、最初の段階でケアの度合い（サービス提供の方法）で振り分けるような機能があってもよいと思ひます。

テレワークやABWと言われている中で、固定席でチームワークをしながら即座に意思決定を行う方が生産性が上がる場合もあり業務の実態に沿った設計がよいと考えまます。様々な機能に対して、その機能を必要とする人のパフォーマンスが上がること、職員にとっての快適な働き方をあわせて考えていくことが重要です。

脱炭素や感染症対策はベーシックな項目なため、しっかりと抑えていく必要があります。

防災に関しては、例えば防災拠点機能を目玉にして、重点的に投資していくこともよいと思ひます。

まちづくりの観点では、清水らしさや愛着など市民感情に寄り添って考える必要がありますが、若者が庁舎を訪れない中で、求心力のある発信機能や新しい情報やサービスが得られること、清水らしさが感じられることなどに重点を置くという考えがあってもよいと思ひます。

議事要旨

恒川委員長	項目ごとに順位をつけることは難しいと思いますが、改修工事の一定の制約がある中で絶対にやるべきことであるか、そうでないかを分けることはできると思います。
黒瀬委員	<p>資料2の11ページについて、情報発信拠点と記載がありますが、東口公園に立地することを想定しての記載であったことを思い出しました。「清水はいいねえ」というのは市民も同じ感覚で通じる言葉であると思いますが、現位置では、優先順位としては市民や人と人のつながりの方が重視されるべき項目と考えます。</p> <p>減築すべきかどうか、どうやって構造補強するかは第三次診断を経てからでないと議論ができないため仕方ありませんが、津波の可能性が高い1階に窓口機能や、身体が不自由な人の窓口機能を残すか残さないかは第三次診断をしなくても議論ができると思います。2階のほうが安全ですが、毎回2階に上がらないといけなくなります。新築であればエスカレーターを入れられると思いますが、改修でかつ20年で元が取れるかどうか考えると厳しいと思います。避難をしっかりとできるように1階を使いやすくするか、津波を懸念して日常が不便でも2階にするかは大きな判断になると感じました。新築の場合は2階に上げることが多いですが、どちらがよいか判断が難しく、もし1階に残すのであれば避難計画をしっかりと立てる必要があります。</p> <p>水密扉に関しては、技術的には大丈夫であっても、市民にとって不安が残るのであれば安心をとって2階に上げる必要があります。このあたりは議論を深めていく必要があります。</p>
堀川委員	<p>水密扉について、機械室が地下2階のため、水が入ってくるとなると地下1階の水を抜いてから地下2階の水を抜くことになります。機械室なので、重要な部分のため地下には置かないで上に持って行った方がよいと考えます。</p> <p>階層構成については、3年後の令和7年度にデジタル化されますが、改修終了が令和9年と聞いておりますので、同時並行でデジタル化の方針を検討ができ、部署の配置や階層構成を考えることができると思います。</p> <p>説明の中で、津波が1.5mとありますが、今の清水庁舎は1階がGLから1m以上上がっているため、その部分も含めて検討ができればよいと考えます。</p> <p>1階の天井が高い理由は何でしょうか。また2階へ上がる階段が2か所しかないため、それも踏まえて検討したほうがよいと思います。</p>
田宮委員	2階以上で窓口をとれるとすれば、地下に機械を置かない配置がよいと思います。ただ2階へ行くのに不自由な方もいますので、エスカレーターを作ることがよいと思います。ただエスカレーターの設置が可能かどうか、いくらかかるのかを踏まえて検討ができればよいと思います。
事務局	1階をフリースペースにするかどうかは、議論頂きながら考えたいと思います。技術的には2階以上にすることは可能ですが、改修後20年の使用期間の中で、エスカレーターをつけるとコストがかかることも懸念

議事要旨

材料の一つです。また1階の方が手続きの利便性が高いことも認識しています。

清水駅東口公園と比較し現庁舎はかさ上げしていることや、津波の浸水深が1.5mと小さく、さらに到達時間も20分のため津波には強い場所です。仮にデジタル化が進めば、サーバーを別の場所にすることで、津波によりデータを失うリスクが低減し、業務継続性も担保されます。これらも踏まえてメリット・デメリットを見ながら議論していきたいと思えます。

1階の階高が高い理由は、昭和50年代の設計当時は、1階の特別なフロアとしての設計と思えます。当時から窓口のカウンターがありました。

堀川委員

さらに1m程度高くして窓口業務ができる中二階をつくることも想定されると思えます。

恒川委員長

加藤委員からもご意見がありますが、災害対策拠点としてのヘッドクォーター機能を維持するために、機械室は、地下でも問題ないものを除き、水に浸かってしまうリスクのある地下ではなく、上層階に移動することについては委員会として合意頂けると思えます。

また1mかさ上げされており、階高も高く、さらにデジタル化が進むとなると、窓口は1階という可能性もあるという議論でした。一方で2階に窓口を配置し、エスカレーターを設置するとなると大きな改修になるため、やや苦しいかもしれないという議論でした。

石垣委員

今までの意見を踏まえまして、(庁舎整備を)次の新しい計画として考えた場合、様々な意見や市民、職員の意見を盛り込むことが大切と考えます。

機械室については、災害等の浸水に備えたものとして機能が果たせるかどうか考え、少しでも不安があれば上層部に持っていく必要があると思えます。

私も2階に区役所機能を持っていく方がよいと思えます。災害や津波の被害が起きるリスクはできる限り避けたほうがよいと思えますが、エスカレーター設置のコストが高いとのことですので、設置有無の比較検討を行ってもよいかと思えます。

また、清水区の一つの特徴として生涯学習交流館で証明書の発行がより効率的に発展できるならば庁舎のスリム化が図れると思えます。

さらに庁舎付近は、日の出地区と江尻地区を結ぶ立地であり、次世代交通モビリティの計画も検討されているため、新庁舎も賑わいを作る一つの要素になると思えます。ただ、食堂が階層構成から消えており、焼津市役所などのように展望のよい食堂などができればよいと思えます。

堀川委員

機械室をふれあいホールに持っていくことだけはやめてもらいたいです。

事務局

資料3の図はケーススタディです。ふれあいホールに機械室を持っていき、1階に交流機能を配置するパターンを想定したものです。一方で、ふれあいホール存続のご意見もあることから、今後も丁寧に検討してい

議事要旨

きたいと考えています。

改修後 20 年の使用を想定しますと、機械室を上層部に持っていくだけでも相当なコストがかかります。水密扉はそのコストを下げる手段として示しました。また 1 階機能を 2 階に移動させるにもコストがかかります。そのため優先順位を事務局で改めて整理して、次の会議で示していければと思います。

恒川委員長

1 階部分の対津波性能として 1 階をピロティ形式にせず構造壁形式にすることで問題ないかという論点については、最終的には第三次診断の結果で判断するものと考えます。前の計画でピロティであったためピロティにするというわけでもなく、壁式にするということも書く必要はないと考えます。

事務局

できるだけ減築しなくてよいというご意見を頂きましたが、仮に減築せざる得ない場合、優先順位としてどの部門を庁舎に残し、どの部門を庁舎外に分散配置するかのご意見を頂ければと考えています。

恒川委員長

まちづくりに関わる部門や港に関する部門は現地に近いほうがよいという考え方もあると思いますが、そのあたりはいかがでしょうか。

黒瀬委員

まずは区民対応がある部門は庁舎に残さないといけません。一方で、区民対応の無い、まちづくりのことを考える部署が近隣のビルに移動しても業務上の問題はないと考えます。よく話題に上がりますが、海洋文化都市政策課がマリビルに移動するなどは検討できると思います。

前の計画の議論では、現業をやっている商店街に関する部署は商店街にあってもいいという議論もあったと記憶しています。

ただ、検討委員会で決めづらいこともあり、市からこの部門だったら近隣ビルでも問題ないかと提案してもらった方がよいと思います。

まずは優先順位として、区役所の中でも保健所や市税事務所など区民が頻繁にくる事務所は区役所に残した方がよいと考えます。

減築に関しては、不必要な減築はすべきでないと思いますが、耐震性能を担保するために減築するという事は想定されます。そのため、現段階では大まかな方針を決め、減築の必要性が出てれば改めて議論すればよいと思います。

事務局

今のご意見を踏まえて、業務の性質上分散配置が可能な部署や、親和性を加味して、案をこちらで考えたいと思います。

恒川委員長

防災の考え方につきまして、加藤委員からご意見をもらっており、ここでは機械室の議論しかしていませんが、全体的には加藤委員からのご意見でよいと思います。

高潮の浸水深についてはいかがでしょうか。

事務局

近年、高潮と満潮が重なり、日の出地区が浸水したことはありますが、その際も区役所の業務に影響を及ぼしたこともなく、計画上は問題ないと整理されていると思います。

議事要旨	
石垣委員	<p>防災については、現庁舎は一時的な津波避難場所になります。これまでになかった意見として、津波避難場所として備蓄が必要という意見が出てきており、ソフト的に対応していく必要があります。</p> <p>災害時に市民の方が1、2日過ごせるような場所を確保するためにも減築はあり得ないと考えています。また区役所が水害や地震の防災拠点や災害対策本部の機能を果たせるようにすべきと考えます。</p>
黒瀬委員	<p>防災について、清水地区は全域浸水リスクがあり区民が庁舎に到達できないという議論が以前出ていました。そのため、庁舎の対策だけでは不十分で、浸水リスクが低いところにバックアップ機能があることがよいと思います。バックアップ機能があるところに円滑に移行できることや、バックアップ機能からどうやって浸水したエリアにサービスを広げられるかが重要と考えます。巴川と駿河湾の中心に位置している庁舎に、どれだけ機能を集中しても、道路の接続や橋の維持ができないと意味がないです。そのため庁舎だけに機能を集中させることの問題点は認識しておくべきだと思います。食料を備蓄してはいけないということではありませんが、浸水リスクのない場所に備蓄やバックアップ機能があることの重要性を考えてもらいたいと思います。</p>
恒川委員長	<p>静岡市としてはBCP計画を持っていないでしょうか。</p>
事務局	<p>現在の区役所は防災拠点になっておりますが、津波被害の恐れがあり職員が参集できない場合は、東大曲の消防署で集合して機能するという事になっております。ただ消防署も巴川近くで浸水したという反省点があるため、庁舎改修を契機に、様々な災害リスクに対して全体の防災計画を見直すことが必要と考え、関係部署と議論していきたいと考えます。</p>
恒川委員長	<p>現庁舎の場所に、例えばボランティアセンターや物資が集まることは想定しづらく、アクセス性がよいことやその場所自体が安全である必要があります。備蓄やバックアップ機能は別の場所のほうがよいというのは同意できます。</p>
事務局	<p>今回の資料は論点が多かったため、第8回委員会では、優先順位や考え方を箇条書きしたものを事務局で整理し、検討委員会としての意見として取りまとめします。</p>
4 事務連絡	
事務局	<p>第8回目の委員会は、3月10日の開催を予定しています。</p>
5 閉会	

委員会後に頂いたご意見	
黒瀬委員	<p>建築設備の配置や更新は、改修の費用や庁舎の防災性能の検討に大きな影響を与えることが予想される。来年度、耐震性能の第三次診断と併せて、可能な範囲で建築設備の配置や更新についても調査を検討いただけないか。</p>

